

秋田軍記

凡そ世の成り行くありさまをみるに、すでに夢の世の中に学びたきは、なお政事なり。武士として保つべきは義の道なり。故に野外に咲き乱れたる花も己がため開き思ひなけれども自ら枝を失うなり。

人もつて必ず身の分限を知らず、己が利根に迷い、義にあらざる政行う者は、身を失う基なり。一国一郡守る身に限らず、文道を知らず、民を貪り、佞人を愛し、賢人を嫌い、朝暮遊興にかたより、民の歎きを知らず、身のかいにまかせ、政事正しからざるは風前のともし火なるに、たとえ天下將軍、一国一郡の大將たる身の心がけたきは、義の道、弓馬合戦の道なるをや。

秋田軍記

目録

一、秋田太守太郎実季公、湊の城に住居の事

一、実季公、御違例の事、併せて御看病の事

一、太郎殿、御遺言の事

一、城之助殿、湊の城に御入りの事

一、太郎殿御子、源九郎殿の事

一、浦の城主、三浦兵庫守が事

一、源九郎愛吉公、謀叛の事 郎等馳せ参る事、附、兵庫守 湊へ参る事 橋本丹波守 廻文を

以て所々へ廻る事

一、愛季、湊を開き男鹿の城へ御入りの事

一、仙北戸沢能登守、大勢引き具し加勢の事、附、処々の諸大將馳せ参る事

一、九郎殿、軍法の事、附、手分けの事

一、三浦兵庫守、檜山の城へ討手に向かう事

一、新庄石見守、八柳長門守、男鹿へ向かう事

一、五十目采女正、馬場目玄蕃亮、檜山加勢の事

一、檜山切山の城、合戦の事

一、黒熊が事、附、討死の事

一、小松作太郎、討死の事